

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 北海道財務局長

【提出日】 2022年11月10日

【四半期会計期間】 第83期第2四半期(自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)

【会社名】 北海電気工事株式会社

【英訳名】 Hokkai Electrical Construction Company, Incorporated

【代表者の役職氏名】 取締役社長 阿部 幹 司

【本店の所在の場所】 北海道札幌市白石区菊水2条1丁目8番21号

【電話番号】 札幌 011-811-9411 (代表)

【事務連絡者氏名】 参与経理部長 合 田 豊 之

【最寄りの連絡場所】 北海道札幌市白石区菊水2条1丁目8番21号

【電話番号】 札幌 011-811-9411 (代表)

【事務連絡者氏名】 参与経理部長 合 田 豊 之

【縦覧に供する場所】 証券会員制法人札幌証券取引所  
(北海道札幌市中央区南1条西5丁目14番地の1)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第82期 第2四半期 連結累計期間	第83期 第2四半期 連結累計期間	第82期
会計期間	自 2021年4月1日 至 2021年9月30日	自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日
売上高 (百万円)	25,836	29,194	59,626
経常利益又は経常損失( ) (百万円)	114	184	1,475
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( ) (百万円)	31	168	988
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	121	81	1,238
純資産額 (百万円)	25,777	26,606	26,895
総資産額 (百万円)	40,184	44,078	42,776
1株当たり四半期(当期)純利益又は1株当たり四半期純損失( ) (円)	1.52	8.14	47.69
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	64.1	60.4	62.9
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,311	2,892	4,337
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	511	2,849	2,561
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	208	214	210
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (百万円)	7,860	13,338	7,811

回次	第82期 第2四半期 連結会計期間	第83期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2021年7月1日 至 2021年9月30日	自 2022年7月1日 至 2022年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	12.28	7.90

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移につきましては記載しておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

なお、当社グループは設備工事業の単一セグメントであります。

#### (1) 経営成績

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、企業収益の一部に弱さが見られるものの総じてみれば改善し、個人消費は緩やかに増加するなど、景気は資源価格上昇の影響などを受けつつも、新型コロナウイルス感染症抑制と経済活動の両立が進むことで緩やかに持ち直している状況にあります。北海道地域におきましては、生産活動や公共事業などが弱みとなっているなど、全体としては持ち直しの動きに弱さがみられる状況で推移しました。

建設業界におきましては、民間設備投資が増加しているものの、労働者不足や建設コストの上昇が続いております。

このような状況のなかで、当社グループは、「中期経営計画2021-2025」の取り組みを推進し、全社営業体制による一般大型工事の獲得に向けた営業活動を強力に展開するとともに、利益の確保に向けた原価低減の徹底と業務効率化に取り組んでまいりました。

当第2四半期連結累計期間の業績は、一般大型工事の反動減などにより受注高と利益は前年同四半期を下回ったものの、再生可能エネルギー関連工事を中心に前期からの繰越工事が順調に進捗したことなどから、売上高は前年同四半期を上回り、次のとおりとなりました。

受注高	331億79百万円	(前年同四半期比	24.5%減)	
売上高	291億94百万円	(前年同四半期比	13.0%増)	
営業損失	2億52百万円	(前年同四半期は	営業利益	53百万円)
経常損失	1億84百万円	(前年同四半期は	経常利益	1億14百万円)
親会社株主に帰属する 四半期純損失	1億68百万円	(前年同四半期は	親会社株主に帰属する 四半期純利益	31百万円)

#### (2) 財政状態

##### 資産

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ13億1百万円増加し、440億78百万円となりました。

流動資産につきましては、前連結会計年度末に比べ11億33百万円増加し、299億89百万円となりました。

これは主に、受取手形・完成工事未収入金が31億87百万円及び短期貸付金が30億円減少したものの、現金預金が増加した55億26百万円及び未成工事支出金が15億13百万円増加したことによるものであります。

固定資産につきましては、前連結会計年度末に比べ1億68百万円増加し、140億89百万円となりました。

##### 負債

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ15億90百万円増加し、174億72百万円となりました。

流動負債につきましては、前連結会計年度末に比べ15億67百万円増加し、117億3百万円となりました。

これは主に、その他が未払費用の減少などにより6億43百万円及び未払法人税等が3億56百万円減少したものの、支払手形・工事未払金が12億82百万円及び未成工事受入金が12億77百万円増加したことによるものであります。

固定負債につきましては、前連結会計年度末に比べ23百万円増加し、57億69百万円となりました。

#### 純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ2億88百万円減少し、266億6百万円となりました。

これは主に、利益剰余金が剰余金の配当などにより3億75百万円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ2.5ポイント減少し、60.4%となりました。

#### (3) キャッシュ・フロー

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、133億38百万円となり、前年同四半期連結会計期間末に比べ54億77百万円の増加となりました。

これは主に、営業活動の結果獲得した資金や、投資活動の結果獲得した資金が前年同四半期連結累計期間に比べ増加したことなどによるものであります。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

##### 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果獲得した資金は、未成工事支出金の増加などがあったものの、売上債権の減少や仕入債務の増加などにより、28億92百万円（前年同四半期連結累計期間に比べ15億80百万円の増加）となりました。

##### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果獲得した資金は、短期貸付金の減少などにより、28億49百万円（前年同四半期連結累計期間に比べ23億37百万円の増加）となりました。

##### 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、配当金の支払いなどにより、2億14百万円（前年同四半期連結累計期間に比べ6百万円の増加）となりました。

#### (4) 重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響につきましては、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項 追加情報」に記載しております。

#### (5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間において、特記すべき事項はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	70,000,000
計	70,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2022年11月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	20,733,107	20,733,107	札幌証券取引所	単元株式数 100株
計	20,733,107	20,733,107		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年9月30日		20,733,107		1,730		2,364

## (5) 【大株主の状況】

2022年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
北海道電力ネットワーク株式会社	北海道札幌市中央区大通東1丁目2	11,519	55.60
北海電気協会持株会	北海道札幌市白石区菊水2条1丁目8-21 北海電気工事内	1,585	7.65
北海電気従業員持株会	北海道札幌市白石区菊水2条1丁目8-21	904	4.37
美和電気工業株式会社	東京都新宿区新宿1丁目8-5 新宿御苑室町ビル	284	1.37
株式会社ザイエンス	東京都千代田区丸の内2丁目3-2	258	1.25
株式会社日本カストディ銀行 (信託口4)	東京都中央区晴海1丁目8-12	164	0.79
株式会社野村商店	東京都千代田区神田司町2丁目8-1 PMO神田司町	161	0.78
石垣電材株式会社	北海道札幌市中央区北6条西13丁目1	154	0.74
株式会社日本カストディ銀行 (三井住友信託銀行再信託分・ 株式会社ダイヘン退職給付信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	154	0.74
共和電気工業株式会社	北海道札幌市北区北23条西9丁目1-17	111	0.54
計		15,296	73.83

## (6) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2022年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 14,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 20,702,500	207,025	
単元未満株式	普通株式 16,107		
発行済株式総数	20,733,107		
総株主の議決権		207,025	

(注) 1 上記「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が3,400株(議決権34個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式30株が含まれております。

## 【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 北海電気工事株式会社	北海道札幌市白石区菊水 2条1丁目8-21	14,500	0	14,500	0.07
計		14,500	0	14,500	0.07

(注) 発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)は、所有株式数の合計(株)に単元未満株式数30株を含めて計算しております。

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2022年7月1日から2022年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金預金	7,811	13,338
受取手形・完成工事未収入金	16,115	12,928
未成工事支出金	1,212	2,726
材料貯蔵品	529	594
短期貸付金	3,000	-
その他	188	403
貸倒引当金	1	1
流動資産合計	28,856	29,989
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物(純額)	5,632	5,517
その他(純額)	4,479	4,685
有形固定資産合計	10,111	10,202
無形固定資産	225	225
投資その他の資産	3,582	3,660
固定資産合計	13,920	14,089
資産合計	42,776	44,078
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金	6,093	7,376
未払法人税等	470	113
未成工事受入金	561	1,839
工事損失引当金	38	45
その他	2,971	2,328
流動負債合計	10,135	11,703
固定負債		
退職給付に係る負債	5,667	5,699
その他	78	69
固定負債合計	5,746	5,769
負債合計	15,881	17,472
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,730	1,730
資本剰余金	5,032	5,032
利益剰余金	19,178	18,802
自己株式	3	3
株主資本合計	25,936	25,560
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	973	1,028
退職給付に係る調整累計額	14	16
その他の包括利益累計額合計	958	1,045
純資産合計	26,895	26,606
負債純資産合計	42,776	44,078

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
完成工事高	25,836	29,194
完成工事原価	24,646	28,313
完成工事総利益	1,189	881
販売費及び一般管理費	1,136	1,134
営業利益又は営業損失( )	53	252
営業外収益		
受取配当金	24	26
その他	47	45
営業外収益合計	72	72
営業外費用	10	3
経常利益又は経常損失( )	114	184
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産除却損	10	13
特別損失合計	10	13
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失( )	104	197
法人税等	72	28
四半期純利益又は四半期純損失( )	31	168
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失( )	31	168

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失( )	31	168
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	62	55
退職給付に係る調整額	27	31
その他の包括利益合計	89	86
四半期包括利益	121	81
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	121	81

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	104	197
減価償却費	336	318
貸倒引当金の増減額( は減少)	0	0
退職給付に係る負債の増減額( は減少)	89	78
受取利息及び受取配当金	28	27
有形固定資産売却損益( は益)	0	0
有形固定資産除却損	10	14
売上債権の増減額( は増加)	3,029	3,187
未成工事支出金の増減額( は増加)	1,565	1,513
棚卸資産の増減額( は増加)	15	64
仕入債務の増減額( は減少)	611	1,294
未払消費税等の増減額( は減少)	168	351
未払費用の増減額( は減少)	452	486
未成工事受入金の増減額( は減少)	536	1,274
その他	265	284
小計	1,179	3,242
利息及び配当金の受取額	28	27
法人税等の支払額	12	377
法人税等の還付額	116	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,311	2,892
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	371	125
有形固定資産の売却による収入	0	0
無形固定資産の取得による支出	112	34
短期貸付金の増減額( は増加)	1,000	3,000
その他	4	9
投資活動によるキャッシュ・フロー	511	2,849
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	207	207
その他	1	7
財務活動によるキャッシュ・フロー	208	214
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	1,615	5,526
現金及び現金同等物の期首残高	6,245	7,811
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 7,860	1 13,338

## 【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについて)

新型コロナウイルス感染症拡大による当第2四半期連結累計期間への影響については、売上高や受注高の減少など足元の業績に特段の影響はみられませんでした。今後については、感染症拡大の影響が現時点では限定的であると見込んでおりますが、感染症拡大が企業収益や設備投資に影響することによる受注減少や工事の延期・中止、サプライチェーンの活動停止による工事遅延などの影響が懸念されるほか、当社グループの経営に様々な影響を及ぼす可能性があります。

繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りについては、前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)の記載と同様に、現時点で重要な影響を及ぼすことはないと判断しておりますが、感染症拡大による影響が長期化すれば、受注減少や工事の延期・中止等の影響が生じ、当社グループの経営環境が悪化し、会計上の見積りに影響を与えることで、当連結会計年度の業績等に影響を及ぼす可能性があります。

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
従業員給料手当	460百万円	473百万円
退職給付費用	31百万円	32百万円
役員退職慰労引当金繰入額	5百万円	-
貸倒引当金繰入額	0百万円	0百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
現金預金	7,860百万円	13,338百万円
現金及び現金同等物	7,860百万円	13,338百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月29日 定時株主総会	普通株式	207	10	2021年3月31日	2021年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	207	10	2022年3月31日	2022年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
 後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)  
 設備工事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)  
 設備工事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント
	設備工事業
配電線工事	10,765
発送変電工事	3,758
地中線工事	3,954
通信工事	1,805
屋内配線工事	2,265
その他工事	3,286
顧客との契約から生じる収益	25,836
外部顧客への売上高	25,836

(注) 当社グループは、設備工事業の単一セグメントであります。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント
	設備工事業
配電線工事	10,289
発送変電工事	3,285
地中線工事	4,137
通信工事	1,625
屋内配線工事	6,722
その他工事	3,133
顧客との契約から生じる収益	29,194
外部顧客への売上高	29,194

(注) 当社グループは、設備工事業の単一セグメントであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失( )	1.52円	8.14円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失( )(百万円)	31	168
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益又は親会社株主に帰属する 四半期純損失( )(百万円)	31	168
普通株式の期中平均株式数(株)	20,718,614	20,718,577

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年11月10日

北海電気工事株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

札幌事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 照 内 貴

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 藤 森 允 浩

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている北海電気工事株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、北海電気工事株式会社及び連結子会社の2022年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。  
監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。  
監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。